

守山の「教育」の魅力を探る

ピックアップ



JAレク滋賀 広報担当 福島 翔さん



守山市教育研究所 中道 裕恵さん



守山春菊部会 部長 山田 浩詞さん



JAレク滋賀 森井 啓文さん

インタビューに答えてくれた皆さん



①

今回、ジュニアリポーターは、小学校の社会科授業で使われている副読本「わたしたちの守山」（市社会科副読本編集委員会編）と補助教材「農業とわたしたちのくらし」（J-Pバンクアグリ・エ「サポート基盤発行）から学べる、まちの魅力を取材しました。

市内小学校では「わたしたちの守山」という副読本が、3、4年生の社会科の授業で使われています。この副読本は、ジュニアリポーターと同じ、「守山の魅力を知り、郷土を愛する気持ち」を育むことをねらいの一つとして、市社会科副読本編集委員会が企画・取材・編集したものです。まちの様子や人々の暮らし、身近な産業、治水などを紹介するとともに、郷土について学ぶ方法などが掲載されています。

3年度の改訂版からは1人1冊が配られるようになりました。守山は昔から農業が盛んで特産物も多く、今でも豊かな田園風景が広がっています。こうした背景から、毎年JAレク滋賀から寄贈されている「農業とわたしたちのくらし」という補助教材も授業で使われています。

モリヤマジュニアリポーターは守山の魅力について、テーマの検討から現地でのインタビュー、写真撮影、執筆まで行い、小学生リポーター独自の目線で紹介するコーナーです。

①春菊農家で春菊の収穫を体験②教育研究所の先生とJAレク滋賀の職員による社会科副読本などについての解説③歴代の副読本「わたしたちの守山」④改訂版「わたしたちの守山」の制作に携わった中道先生の取材⑤春菊農家の山田さんと一緒に⑥春菊の集荷作業



②

「わたしたちの守山」に

「わたしたちの守山」は約45年前から市内の小学校で使われている副読本です。教科書には書かれていない守山のみ力がつまっています。

学習指導要領が変わる度に改訂されていき、最新版はサイズも教科書と同じになり、いと感じなく使えるようになっていきます。さらに一人ひとりに配布され、学校だけでなく家にいる時守山のみ力を感じることが出来ます。



③



森田千尋さん（守山小学校5年生）

しゅんぎく姉妹

春ぎく農家さんでしゅんかく体験をしました。野洲と守山で姉妹のように助け合って育てていくという思いをこめて名付けられた「しゅんぎく姉妹」を育てておられました。しゅんかく

後はJAで検査し、京都や大阪に出荷されます。はさみでつみ取りましたが、また芽が出てきてしゅんかくできるそうです。私はなべに入れて食べましたが、やわらかく苦みが少ないのが特徴なので、サラダにしてもおいしいそうです。実際、春ぎくが苦手だった私もおいしく食べられました。



④



⑤



⑥

ジュニアリポーターの活動を振り返って

ジュニアリポーターの印象に残ったできごと
たくさんあった勉強会の一つに市役所外での練習もありました。はじめてのことだったので、とても緊張しましたが、メモの取り方をここで初めて実せんでき、本番に向けての一番の練習になり、良かったと思います。そして迎えた本番の日。初めての名し交かんや無意識に失礼な発言をしてしまわないかなど、とてもドキドキしました。メモばかり取らずに相手の人を見るように気がつけました。練習とは違い、同時にすることが多く大変でしたが、一番やりがいがあり、楽しい回でした。



記事を書く練習



インタビューした皆さんと記念のショット



森田 千尋さん

今年は1人だったので寂しいかな、と少し心配したけれど、勉強でも本番の取材でも一生懸命ですごい。大人になるころは僕より記事が書けるようになっていくかも。(^_^)



広報担当のつばやき